

群 教 セ	G10 - 01
	平27.257集
	道徳

道徳的価値の理解について広い視点を持ち、 自分の考えを深める児童の育成

—多様な意見を引き出し、
人間理解・他者理解を深める活動を通して—

特別研修員 茂木 潤平

I 研究テーマ設定の理由

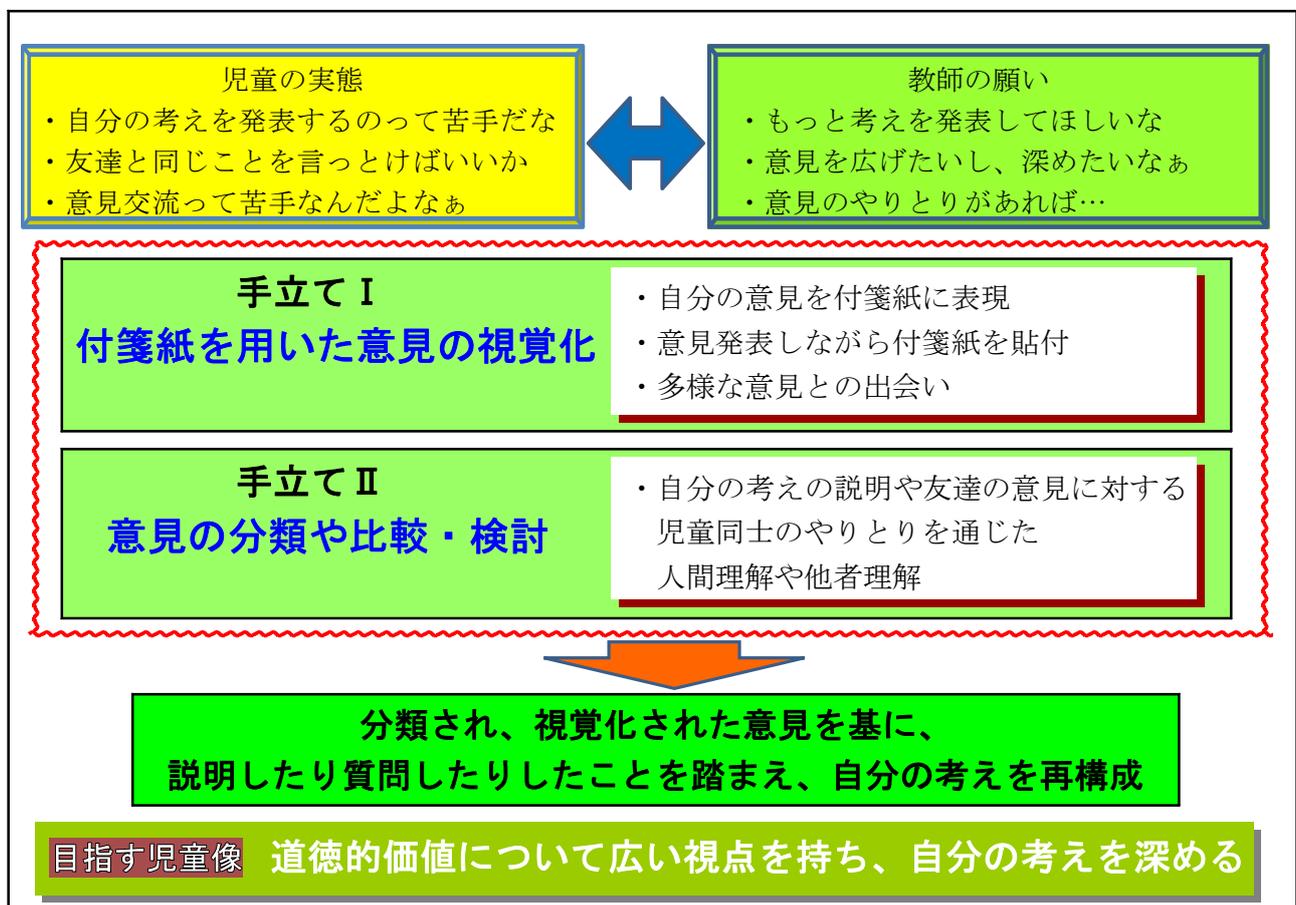
「はばたく群馬の指導プラン」では、話し合い活動を充実させるために、「自分の考え」を基にして、目的に応じた話し合いや聞き合う活動を取り入れて、ねらいに迫ることが取り挙げられている。

道徳の授業において、児童がねらいとする道徳的価値について、自分の考えを持ち、友達との意見交流を通して考えを深めることは、児童が道徳的実践力を発揮する上で、その基盤となるものである。しかし、日々の道徳の授業において、意見交流の場面で、自分の考えを発表したり、互いの意見を交流したりすることに弱さが見られる。

そこで、まず、意見交流の場面で付箋紙を用いて意見の視覚化を行い、自分の考えを表現したり、友達の意見に触れたりしやすくする。次に、出された意見について、道徳的価値の視点を共有したり、教師と児童や児童相互での説明や質問をし合ったりすることで、意見の分類や比較・検討を行う。これらを通じて、自分の考えを再構成することが、自分の考えを深める児童の育成につながると考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1) 付箋紙を用いた意見の視覚化

付箋紙を用いて、児童相互の意見を視覚化することで、多様な考えがあることに気付けるようにすることをねらいとした。

付箋紙に書いた自分の考えを持って黒板前に集まり、自分の考えを発表しながら、付箋紙を貼った。その際、友達の意見が自分と同じだったり、似ていたりした場合は、発言をしてから付箋紙を貼った。

児童は、自分の考えだけでなく、友達の考えにもいろいろあることは経験から分かっている。しかし、どんな考えがあるのか、自分の考えとの相違点はどこかについて、はっきりと認識するためには、意見が視覚化されていることが望ましい。グループや全体での意見交流の際に、発表だけでなく、付箋紙に書かれた意見が貼り出されていることで、児童の意見の視覚化が図られるとともに、道徳的価値に関する思いには多様なものがあることに気付きやすくなると考える。

(2) 意見の分類や比較・検討

付箋紙で貼り出された多様な意見について分類や比較・検討をしたり、自分の経験とつなげて考えたりすることで、お互いに学び合い、道徳的価値の理解を深めることをねらいとした。個の考えを基にして、クラスの全員が自分の意見を言ったり、友達の考えを理解したりすることで、道徳的価値の捉えには様々なものがあることを自覚できるようになると考える。

出された意見とその理由は、児童の道徳的価値の理解を図るために、児童からの意見を意味付けしたり、問い返しを行ったりするとともに、児童から出された意見の分類を行う必要がある。児童の意見をまとめたり、まとめたものに小見出しを付けたりすることで、出された意見を道徳的価値について広い視点で考えたり、深く考えたりする根拠となるようにする。分類を行うことで、多様に出された児童の意見についての道徳的価値の視点を共有することができると考える。

自分と友達の考えを比較・検討することは、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながる。自分と友達の相違点やその理由について比較・検討し、なぜそう考えたのかを考えることは、児童が道徳的価値の理解について広い視点を持つことや人間理解や他者理解を深めることにつながると考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

○ 多様な意見に気付く

付箋紙を利用して児童の意見を視覚化することで、多様な意見があることに気付くことができた。この過程で、児童は自分の考え以外にも、多様な考えがあることを知ったり、どうしてそう考えたのか理由を聞いたりすることで、友達の考えをより良く理解することができた。

○ 自分の考えを深める

張り出された付箋紙の意見を基に、児童同士で意見の分類を行うことで、道徳的価値について広い視点で考えることができた。さらに、それぞれの意見の比較・検討を行いながら話し合いを行うことで、自分の考えの説明や友達の意見に対する児童同士のやりとりが生まれ、人間理解や他者理解が図られた。その結果、自分の考えを再構成することができ、自分の考えを深めることができた。

2 課題

○ 児童の意見を適切に分類する

児童から意見が出された際に、道徳的価値の理解に関する分類を適切に行うという点に改善が必要である。教師が道徳的価値についてどのように捉えるかを明確にする必要がある。さらに、授業の中でどの道徳的価値について考えを深めていくかを絞っておくことも大切である。

○ 友達の意見に対して深く考える

友達の意見を聞いて、その意見に対する自分の考えをお互いに述べ合うことに課題が残った。友達の意見を音声や視覚で理解した上で、疑問点や質問したいことまで授業の中で表すことができれば、道徳的価値の深まりを更に図ることにつながると考えられる。そのためには、児童が出した意見を基に、教師が言葉を置き換えたり整理したりするなど、その意見をつないでいくことが必要である。

<授業実践>

実践 1

- 1 主題名 自他の生命を尊重して 内容項目 3－(1) (第6学年・1学期)
資料名 「その思いを受けついで」私たちの道徳(文部科学省)

2 主題及び本時について

本主題は学習指導領域の内容項目 3－(1)「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する」をねらいとしている。

生命のかけがえのなさを自覚できるようにするためには、様々な人々との支え合いの中で自分の生命がはぐくまれることや生命が祖先から自分そして子孫へと受け継がれていくことをより深く理解することが大切である。そのために、自分の生命は自分だけのものではなく、家族をはじめ多くの大切な人々の深い愛情と思いによって支えられていることについて考えさせ、自他のかけがえのない生命を大切に生きていこうとする心を育みたい。

3 授業の実際

導入では、読み物資料と同じような状況「自分の生命が後3ヶ月となったら、どんなことを思うか」と問いかけて、ねらいとする道徳的価値の方向付けを行った。児童は「こわい。死にたくない。どうしよう」等の反応を示した。普段、あまり考えたことがないことだったので、戸惑いを見せる児童も多かった。

次に、資料を読んで心を動かされた場面について考え、意見交流を行った。その際、心を動かされた場面として、①病気で苦しむおじいちゃんのために、主人公が毎日病院に行った場面②おじいちゃんが主人公に手紙を残した場面③お母さんがおじいちゃんに配慮する場面の三つが挙げられた。付箋紙で自分の考えを表現し、意見発表しながら付箋紙を添付することで、自分の意見だけでなく、友達のような意見があることに気付くことができた。

ねらいとする道徳的価値へと焦点化するために、意見の分類や比較・検討を行った。意見を記述した付箋紙を基に、意見を聞いたり、比べたりすることで、同じ点や違う点を理解した。その上で、児童の意見を記述した付箋紙から明らかになった疑問を基に、中心発問で「主人公がどうして毎日病院へお見舞いに行ったのか」というおじいちゃんへの思いについて問い、自分の考えをまとめた。この中で、人間誕生の喜びや死の重さ、共に生きることの素晴らしさに関する価値を高めた。

次に、友達の見方や考え方に気付くことができるようにするため、個別に自分の意見を持った上で、二人組での話し合い活動を取り入れた。さらに、道徳的なものの見方や感じ方を深めていくために、グループで出した意見を広げ、多様な見方や考え方のよさに触れるために、クラス全体での話し合い活動を取り入れた。このことにより、他者理解を深めることができた。

終末では、自分の生命と同じように、友達も大切な生命であることや、命を大事にして精一杯生きることの大切さに気付けるようにした。さらに、まとめた考えを友達と交流することで、人間理解を深めた。

手立てⅡ：付箋紙に表現された意見を基に、意見の分類や比較・検討を行っている場面

太ゴシック字は、手立てにかかわる発言

T：心を動かされたのは、どんなところですか？

S1：苦しんでいるおじいちゃんを見るのは辛いはずなのに、大地君が毎日病院に通ったところです。

S2：私にもおじいちゃんがいるので、亡くなったので、大地君の気持ちが分かりました。

S3：**今の意見を聞いて**、おばあちゃんが亡くなったときのことを思い出しました。

T：このまとまりのキーワードは、大地君のおじいちゃんへの思いだね。

S4：おじいちゃんが大地君に手紙を残したところです。苦しくても大地君のことを思ったと思うからです。

S5：私は最初、大地君の思いしか考えていなかった。**だけど、友達の見意見を聞いて**、おじいちゃんが手紙を残したところの方が心に残ると思いました。

T : おじいちゃんの大地君への思いだね。お母さんは、思いはなかったのかな？

S6 : お母さんは二人を見守った。

手立て I : 付箋紙への記述から自信を持って意見を出し合う場面

T : 大地君はどうして毎日病院に通ったのでしょうか？【中心発問】

S1 : おじいちゃんのこと大好きだったから。

S2 : おじいちゃんのために最後まで力を尽くしたいと思ったから。

S3 : 病気で苦しむ姿を見るのは辛いけど、元気になってほしいから。

S4 : もうすぐおじいちゃんに会えなくなるかもしれないから。

児童同士のやりとりを通じた記述

太ゴシック字は、他者理解を進めた部分

私は、大地君がおじいちゃんのこと心配だから友達と遊ぶよりも、早く病院に行っておじいちゃんとの残された時間を大切にしたいのだと思っていました。友達の考えを聞いて、自分と同じ考えもあったけど、おじいちゃんが大地君のことを大切にしているから毎日病院に通ったという考えがあって、私は**おじいちゃんの気持ちまで考えなかった**ので、大地君もおじいちゃんもお互いを大事にしていると思いました。

4 考察

○ 手立て I

自分の考えを発表しながら付箋紙を貼ることで全体の意見が視覚化され、友達同士の意見の比較・検討がしやすくなった。これは児童から多様な意見を引き出すことができたことが大きいと考える。また、本学級では、自分の意見をまとめることができるが、学級全体に自分の考えを発表することに苦手意識を持っている児童が多いという課題がある。しかし、付箋紙を用いた意見交流では、全員が自分の考えを発表でき、友達の意見と比較をしながら付箋紙を貼ることができた。全体の意見が視覚化されることで、友達の意見もよく分かり、自分も意見を出そうという意欲につながったと考えられ(図1、図2)。



図1 自分の考えを付箋紙で発表



図2 付箋紙に書いたことを基に意見発表

○ 手立て II

視覚化された付箋紙の意見を基にして、意見の分類や比較・検討を行った。心を動かされた場面として、①病気で苦しむおじいちゃんのために、主人公が毎日病院にお見舞いに行った場面②おじいちゃんが主人公に手紙を残した場面③お母さんがおじいちゃんに配慮する場面の三つが挙げられた。児童は、付箋紙の意見を分類していく過程で、友達がなぜその場面を選んだのか疑問を持ったり、自分と同じ場面を選んでも理由が違ったりすることに気付くことができた。

課題として、中心発問で付箋紙を活用しなかったために、児童の考えの深まりが足らなかったことが挙げられる。児童からの意見を比較・検討する際に、「大地君のおじいちゃんへの思い」「おじいちゃんのお母さんへの思い」「お母さんの二人への思い」のように、「思い」というまとまりで児童の考えを整理したため、児童の思考の深まりにつながらなかった。

これを改善するために、「思い」の中身を比較・検討しキーワード化することで、生命に対する考え方の多面性(「生命の大切さ」「周りの人々に支えられている生命」「自分だけの生命ではない」「見守られている生命」)について気付けるようにすることが必要だった。多様な意見を基にして、児童同士でやりとりをしながら、他者理解や人間理解を深めることができれば、道徳的価値についてより考えを広げたり、深めたりできたと考える。

実践 2

- 1 主題名 謙虚に、広い心をもって 内容項目 2 - (4) (第 6 学年・2 学期)
資料名 「銀のしょく台」 私たちの道徳 (文部科学省)

2 主題及び本時について

本主題は学習指導領域の内容項目 2 - (4)「謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする」をねらいとしている。

広い心で自分と異なる立場を大切にするためには、自分の周りにはたくさんの人たちがいるが、感じることや思うこと、考えることもそれぞれ違うことを理解し、だからこそ、お互いに認め合い、受け入れ合って生きていくことの大切さに気付かせることが大切である。そのために、自分とは異なる意見にも耳を傾け、なぜそのような立場をとるのかを相手の気持ちに寄り添って考えさせたい。

3 授業の実際

導入では、ねらいとする価値への方向付けを行うため、読み物資料と同じような状況「自分の大切な物が盗まれたら、それを盗んだ人を許せるか」について事前にアンケートを行った結果を発表した。

展開前段では、困っている時に助けてもらえたジャン・バルジャンの喜びや食器を盗んでしまった後ろめたさについて考えた。

ねらいとする道徳的価値に迫る中心発問では、司教がジャンに銀のしょく台まで渡した理由について問い、その際に多様な価値に気付かせるために、付箋紙を用いた意見の視覚化を行った。児童は、自分の意見を付箋紙に表現した後、意見発表しながら自分の考えを書いた付箋紙を添付した。

次に、自分の考えの説明や友達の意見に対する児童同士のやりとりを通じた人間理解や他者理解を図るために、意見の分類や比較・検討を行った。まず、友達同士で質問し合ったり、似ている点や違う点を考えたりすることで多様な意見をキーワードで分類した。さらに、分類され、視覚化されたクラス全員の意見を基に、友達の意見について意見を述べたり、友達に質問したりした。個で考えたことを広げ、多様な感じ方や考え方のよさに触れることができた。

展開後段では、ねらいとする道徳的価値を自分との関わりで考えるために、相手のことを許せたり、許せなかったりした経験について振り返った。運動会の応援合戦練習の際に、下級生への指導が十分にできなかった経験を振り返り、「今だったら下級生にどんな言葉をかけてあげるか」を問い、謙虚に広い心を持つという道徳的価値に対する自己理解を図った。

手立てⅡ：意見の分類や比較・検討を通し、他者理解を深める場面
()は分類したキーワード **太ゴシック字**は、手立てにかかわる発言

T : 司教はなぜしょく台まで渡したのでしょうか？【中心発問】

S1 : ジャンが貧しいから。お金が必要だと思ったから。

T : このまとまりのキーワードは何だろう？

S2 : **お金がない。**

S3 : **かわいそう。**

T : じゃあ、お金がなくてかわいそうだからという理由のまとまりだね。ジャンの苦しい生活のことを考えたんだね。(①お金がなくてかわいそう)

S4 : 私は、ジャンのことしか考えていなかったけど、ジャンだけでなく、ジャンの家族も貧しいという意見を聞いて、そうだと思います。

S5 : このしょく台があれば、ジャンだけでなく家族も生きていけると思うので、私もそう思います。

T : ジャンは家族のためにパンを盗んだんだね。だから、司教は家族のために使ってほしいと考えたんだね。このまとまりのキーワードは何だろう？

S6 : 銀の食器やしょく台を**役立ててほしい**。(②役立ててほしい)

T : 他の理由を考えた人はいますか？

S7：ジャンにいい人になってほしいから。立ち直ってほしいと思ったからだと思います。
 S8：また牢屋に入れられてしまうので、**警察に捕まらないでほしいと思ったから。**(③警察から守る)

手立てⅡ：他者理解を基に、自己理解へつなげていった場面
 ()は分類したキーワード

T：運動会の練習で言うことを聞いてくれない下級生に対して、今ならどんな言葉をかけたり、やっ
 げたりしますか？【自己理解に関わる発問】

S1：「早く並べば、すぐに練習ができて、すぐに終わるよ」と言う。(相手の立場に立って考える)

S2：きつい言い方をしてしまったけど、広い心をもってやさしく言う。(広い心)

S3：どうして真面目に練習できないか聞いて、励ましてあげる。(広い心)

4 考察

○ 手立てⅠ

付箋紙に自分の考えを書き、意見発表しながら貼り出すことで、聞くだけの理解でなく、視覚的に理解しながら友達の考えを理解することができた(図3)。意見発表の方法が音声だけにならないことで、友達の考えが確認しやすくなり、自分の考えを深める際の手がかりになった。また、付箋紙に書いてから発表することで、発言することが苦手な児童が自信を持って、自分の考えを伝えることができた。

付箋紙に書いた児童の意見を貼り出し、似た意見やそれに近い考え、相対する意見を発表していくことで、道徳的価値に関する多様な考えを引き出すことができた。その際に、児童の思考を促すために、児童の発言を意味付けしたり、切り返しの問いをしたりして、意見のまとめりごとにキーワード化を行った。全員の児童が自分の考えを表現したり、友達に伝えたりする機会は、児童の同士の学び合いを促し、更なる人間理解・他者理解の深まりへとつながったと考える。



図3 付箋紙を用いた意見発表

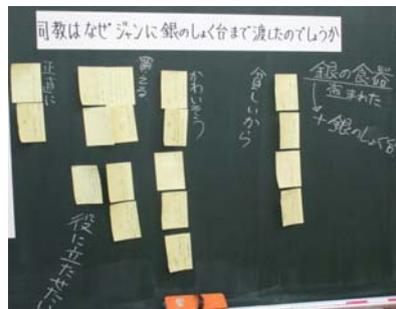


図4 キーワードで分類された意見



図5 児童の意見を分類

○ 手立てⅡ

付箋紙を利用した意見交流では、個人の考えだけでなく、友達の考えに接することができ、似ている意見や自分が考えなかった意見に触れ、考えを広げることができた。また、自分の考えの他にもいろいろな考えがあることに気付いたり、友達の考えを受け入れたり、理解したりしながら、他者理解を深めることができた(図4)。その様子は、中心発問で出された児童の意見をキーワードにまとめる意見交流の場面で捉えることができた。

課題として、児童の意識や考えが、「ジャンがかわいそう」というジャンへの同情から、「なぜ盗んだのかジャンの立場を理解しよう」という共感へ移行しづらかったことが挙げられる。今回の授業では、司教がジャンにしよく台を渡したのはどのような心があったからなのかを分類する際に、①お金がなくてかわいそう②銀の食器やしよく台を役立ててほしい③ジャンを警察から守りたい、また牢屋に入ってほしくないという三つの分類を行った(図5)。しかし、本時では、②役に立ててほしいという司教の気持ちの分類があいまいだった。

これを解消するために、①～③のうち、司教にはどの思いが一番強かったか問い返すことができれば、ねらいとする道徳的価値に更に迫ることができたと考える。